

2021年2月16日

## 【室町時代の相国寺領荘園】

相国寺塔頭の荘園—普広院領を中心に—

相国寺史編纂室研究員 中井裕子

### はじめに

室町時代、相国寺が足利將軍家の庇護のもとで繁栄。

その繁栄を支えた経済的側面を考える。

相国寺やその塔頭を支える一番大きな経済基盤＝荘園からの収益

相国寺やその塔頭がいつどういった経緯で荘園を獲得したのかを明らかにする。

相国寺が荘園をどのように管理運営し、相国寺の活動を支えたのか。

第1講 相国寺領荘園の形成—足利義満期を中心に—

第2講 相国寺領荘園の運営実態について

#### (1) 荘園とは何か

荘園…奈良時代から戦国時代にかけて存在した中央貴族や寺社による大土地所有の形態。

天皇家・貴族・大寺社・幕府(＝権門)が私的に所有した大土地。

権門…権勢のある家。権力者。国家や国の制度に影響を及ぼす存在。

荘園は荘園領主の居住地から原則的に離れている。荘園領主は荘園の現地から年貢などの収益を回収するシステムを構築する。

荘園から収益が、荘園領主の活動を支える経済基盤となる。

※「相国寺領荘園」は、相国寺本山の収入になり、それで本山の経費を賄っていた荘園という意味で使用している。

※相国寺やその塔頭は洛中に小規模な領地を所有。これもあわせて取り扱う。

#### (2) 室町時代の荘園についての研究

天皇家・摂関家・寺社(東寺・高野山など)の荘園が研究対象とされる。

立荘の数がピークであった平安時代末の院政期が荘園制の最盛期で、鎌倉時代から室町時代は荘園制が解体する過程とされる。

南北朝時代、武家勢力の伸張と地域権力の成長。荘園領主権力に敵対し排除する。

(永原慶二)

2000年代になり、室町時代独自の構造的特質を見出される。

伊藤俊一…「室町期荘園制」。都市領主が守護の地域秩序機能に依拠して、寺社本所領と武家領を知行する支配システム。

二代將軍足利義詮末期～三代將軍義満期

室町幕府安定期。

幕府は守護を京都に在住させて統制する。

守護…各国に配置され、その国内を守る軍事指揮官。課税権・裁判権も与えられる。

守護は在京することで幕府政治に参加できる。幕府は守護を通して地方を支配できる。

幕府と守護は相互補完的な関係で政治を行う＝室町幕府一守護体制

この体制で荘園の経営が保証される。

守護は在京。荘園領主の多くは京都に在住。

→荘園の経営で問題が生じると守護を窓口として交渉することが可能。

→荘園領主は安定した荘園経営ができる。

室町時代の荘園は荘園制が解体する時期ではなく、荘園制が変容していく一つの段階と捉えられる。

相国寺とその塔頭の荘園の推移を考える上で、「室町期荘園制」の枠組みを念頭に置いて理解する必要がある。

## 1、乾徳院（後の普広院）の創建

塔頭が得度を得ていた荘園もあり。塔頭の運営経費を担う。

室町時代中頃、相国寺には13の塔頭があり。

普広院には室町時代の荘園関係の文書が若干残されている。

### (1) 開祖観中中諦かんちゅうちゅうたいと足利義満

普広院…創建当初の名前は乾徳院。

観中中諦（康永元年〈1342〉～応永13年〈1406〉4月3日）が創始。

応永7年（1400）3月9日に相国寺住持。

《史料1》『諸師行実』観中中諦の十三回忌の法語…観中の経歴がまとめられる。

この法語の作者…大愚性智だいくしょうち

観中の仏事は乾徳院で行われている。

本寺＝相国寺。本寺供養の日＝明德3年（1392）8月28日の相国寺落慶供養。

鈞命＝足利義満の命令

→観中中諦は足利義満によって10人の高僧に選ばれ、義満の命で相国寺住持となる。

観中の出世には足利義満が深く関わっていた。

三処＝阿波補陀寺・等持寺・相国寺。

→乾徳院の敷地は足利義満から与えられたもの。義満が乾徳院の創建を全面的に支援した。

### (2) 乾徳院の塔頭認定

乾徳院の開創時期は不明。

「乾徳院」初出の史料

《史料2》 応永9年(1402)3月16日「円覚寺黄梅院華嚴塔勸進銭注文」

鎌倉の円覚寺黄梅院に華嚴塔の費用を夢窓派の寺院と僧侶がいくら出したかを記した帳簿。

- ・相国寺・天龍寺は50貫文を負担。
- ・塔頭クラス。大智院5貫文、常德院・勝定院3貫文
- ・塔頭に指定されていない寮舎(諸院クラス)。

環中庵…後の寿徳院→慶雲院(七代将軍足利義勝位牌所)。

足利義勝の位牌所になった時点で塔頭に入れられた。当初は塔頭ではない。

乾徳院3貫文: 諸院クラスのなかでは多く、塔頭クラスに匹敵する額を寄進している。

→乾徳院はこの時点で塔頭に匹敵するくらいの財力がある。

この時代で、恒常的に大きな収入を得るのは荘園などの所領からの収入が不可欠。

乾徳院の創建を支援したのは義満。乾徳院が安定して存続できるように、義満が創建と同時に荘園も寄進したのだろう。

応永13年(1406)4月3日、観中中諦が没。

《史料3》 応永13年5月20日「足利義満御判御教書」普広院文書

足利義満が乾徳院を相国寺諸塔頭に列すよう命じる。

義満は観中中諦に深く帰依していたため、観中の塔所である乾徳院を保護し、観中の門派が栄えるよう取り計らった。

## 2、初期の乾徳院領

### (1) 荘園入手の経緯

応永15年(1408)5月、足利義満没。

四代将軍足利義持の時代。

《史料4》 応永20年7月4日「足利義持御判御教書」普広院文書

乾徳院に宛てられた足利義持の命令書。

備後国福田庄地頭職から北林屋敷等までの所領を、当知行(所有者が実効支配している状況)に任せ、乾徳院が管理することを足利義持が保障する。

安堵についての研究

うえじますすむ

上島享…明德・応永初年ごろ(1390年前後)、室町幕府は北朝が行っていた所領安堵・課役免除の権限を吸収。以後、室町幕府将軍の代替わりには寺領を中心に所領の一括安堵・一括免除が行われる。

→《史料4》は将軍の代替わりに出された一括安堵。

ここに書かれた所領・荘園は、義持以前、つまり義満期に集積されたもの。

・備後国福田庄（現：広島県福山市芦田町付近）

地頭職<sup>しき</sup>…武家方の所領に多い。福田庄の地頭職は足利氏が差配していた。

→義満が乾徳院に寄進したのだろう。

あずかりどころ

預所職…本所・領家などの荘園領主の命をうけ、在地の荘官を指揮して荘園の経営にあたる職。

ひとつの荘園の中で、支配権が入り組んでいる。管理対象を明確にして安堵している。

・丹波国八木嶋地頭職（現：京都府南丹市八木町付近）

文明 12 年（1480）10 月「普広院重書目録」

一、八木嶋寄進状 岩栖院殿 壺通

岩栖院殿<sup>がんせいいん</sup>が八木嶋を寄進。

岩栖院…細川満元（永和 4 年〈1378〉～応永 33 年〈1426〉10 月 16 日）

細川頼元の子。頼元（応永 4 年〈1397〉5 月 7 日没）の死後、家督を継ぐ。

細川頼元は観中の私院永泰院を創建した人物。

→細川頼元が観中中諦に帰依しており、頼元の菩提を弔うため、子の満元が八木嶋を観中の塔所である乾徳院に寄進した。

★観中中諦に対する尊崇により、乾徳院に荘園が集まった。

塔頭の所領は、開祖への信仰により形成された。

## （2）荘園支配の実態

《史料 5》 応永 20 年（1413）12 月 6 日「僧梵济公用銭送状」

備後国福田庄から乾徳院の公的費用に使う金銭として 18 貫文が納められる。

公用銭の送り主…梵济（禅僧だろう）

禅宗寺院には、東班衆という経済面を担当する集団があり。（藤岡大拙）

西班僧…教学専門

東班僧…財政専門

梵济は東班僧で、荘園の経営をするために現地に下った僧（＝庄主）だろう。

庄主は荘園領主である乾徳院が任命する。

荘園支配の形態

直務<sup>じきむ</sup>…荘園領主が直接に荘園を支配し年貢を徴収する。荘園領主直属の代官を遣わすなど。

請負…荘園現地の管理一切を守護・地頭などに委ね、定額の年貢納入を請け負わせる。

備後国福田庄は遠方の荘園であるが、東班の僧を活用して乾徳院が直務支配を行っていた。

### 3、普広院改称後の荘園

六代将軍足利義教の時期

乾徳院の荘園・所領を安堵。義持期とほぼ同じ場所が安堵される。

嘉吉元年（1441）6月24日、嘉吉の乱。足利義教が赤松満祐に殺害される。  
乾徳院が義教の位牌所となり、普広院に名前が変わる。

『兵庫北関入船納帳』（東京大学文学部・京都燈心文庫蔵）

文安2年（1445）正月～翌3年正月、兵庫北関を通過した船から関銭を徴収した記録。  
兵庫北関は東大寺が領有。

二月五日入

三原	塩九十石	三百四十文	二月六日	衛門太郎	道祐
(船籍地)	(積載品目・数量)	(関銭・納付月日)		(船頭)	(問丸)

普広院に関係する部分のみ抜粋

(十二月) 四日

杭瀬	米五十六石	普広院	大田庄年貢内	左衛門四郎
----	-------	-----	--------	-------

廿三日

地下	米六十五石	普広院過書	彦二郎
----	-------	-------	-----

広岡年貢  
二百石二百石内

- ・過書…関所の通行免許証。過書を持つ船は関銭免除。室町時代、過書は将軍が発行する。相国寺とその塔頭はすべて関銭免除を受ける。
- ・普広院領大田庄と広岡から年貢米が運ばれている。  
いずれ荘園も、《史料4》「足利義持御判御教書」に記載されていない。

これらの荘園が普広院領になった経緯

- ・播磨国大田庄（現：兵庫県揖保郡太子町太田）  
普広院は地頭職と領家職方預所職を領有。

（文安3年〈1446〉6月5日「室町幕府管領細川勝元下知状」普広院文書）。

- ・播磨国佐用庄広岡（弘岡とも）（現：兵庫県作用郡作用町上月）  
建武新政で後醍醐天皇が赤松円心に作用庄地頭職を与えて以来、赤松氏の所領に。  
広岡は赤松氏の惣領が相続する。

文明元年（1469）7月29日「普広院重書目録」（普広院文書）

「大田・広岡御寄進御教書 一通」

“御寄進”…大田・広岡は将軍から寄進された。

→播磨国大田庄地頭職と作用庄広岡は元々赤松氏の所領。

嘉吉の乱後、赤松家は取り潰し。赤松氏の所領が収公。  
それを将軍家が足利義教の追善料として普広院に寄進した。

#### 4、室町時代を通して見た普広院領の特徴

(表1) 史料にみえる普広院領荘園

嘉吉の乱以後に荘園の数が増え、それが延徳2年(1490)ごろまで保たれている。  
それ以後、急速に荘園経営が成り立たなくなっている。

《史料6》永正3年(1506)2月、「普広院領不知行目録」  
遠江国河<sup>かわ</sup>匂庄 明応6年(1497)より今川氏親が押領  
丹波国八木嶋 明応7年(1498)より細川政元被官一宮式部少輔が押領  
播磨国菅<sup>す</sup>生 文亀3年(1503)より赤松義村被官堀藤次郎が押領  
六条東洞院 近年 細川被官香西元長が押領  
普広院西門前屋地 近年 太田、細川被官豊田出雲が押領

→守護大名の家臣による押領が目立つ。

遠方から不知行化がすすみ、最終的には洛中の所領も不知行になっている。

「当 御代」…十一代将軍義澄の代。

義澄は明応3年(1494)12月27日に征夷大將軍。

三河国東<sup>とう</sup>上郷や備後国則光庄・福田庄などの遠方の荘園は、義澄の前代に既に不知行か。  
永正3年時点では、ほとんどの荘園からの収益が途絶える。

#### ★普広院領荘園の推移

普広院の荘園は、二段階で集積された。

1 院の創建時。開祖親中中諦への信仰による寄進

2 足利義教の追善料所としての寄進

嘉吉の乱後、足利義教の追善料所を寄進された時点が普広院領のピーク。

延徳2年ごろまでは普広院領が機能している。

その後、不知行となり、普広院領が衰退した。

#### 普広院領の分布

(図1) 普広院領の位置を地図上で示したもの

■…乾徳院創建期に寄進された荘園

●…嘉吉の乱後、増加した荘園

東海・近畿・中国地方に分布。

「室町期荘園制」在京している守護に依拠して荘園の安定化を図るシステム  
守護在京制が採られた地域…駿河・信濃・越後以西の本州と四国  
→普広院の荘園の分布は守護在京制が採られた地域と重なる。

- ★足利将軍家の庇護だけでなく、幕府と在京守護が連携して地方政治を行う「幕府一守護体制」のもとで、安定した荘園経営ができていた。  
そのことが、室町時代の相国寺とその塔頭の繁栄をもたらした。

《参考文献》

- 荘園史研究会編『荘園史研究ハンドブック』（東京堂出版、2013年）  
伊藤俊一「室町期荘園制論の課題と展望」（『歴史評論』767、2014年）  
上島享「庄園公領制下の所領認定—立庄と不輸・不入権と安堵—」（『ヒストリア』137、1992年）  
永原慶二「守護領国制の展開」（『日本封建制成立過程の研究』、岩波書店、1961年）  
林屋辰三郎編『兵庫北関入船納帳』（中央公論美術出版、1981年）  
藤岡大拙「禅院内に於ける東班衆について—特に室町幕府の財政と関連して—」（『日本歴史』145、1960年）  
東京大学史料編纂所研究成果報告『分散した禅院文書群をもちいた情報復元の研究』（研究代表者：山家浩樹）2010年

《史料一》〔諸師行実〕《大日本史料》七編七、九二三頁

觀中和尚十三忌、就乾徳院陸座、  
(中略) (相国寺)

(中略) 爰当本寺供養之日、備高僧十人之列、以賜法衣一頂、顧吾徒  
光輝也、遂承鈞命董莅本寺、(中略) 三処為住持、偏因准三宮大相国寵  
遇厚也、加之創私院於兩処、本院乃准三宮賜其地、且以乾徳扁之、実  
知寵遇之厚、(後略)

《史料二》〔円覚寺黄梅院華嚴塔勸進錢注文〕黄梅院文書

《相国寺史》一、三二二頁

(端裏書)「当院勸進門徒中助成錢帳 三通」

黄梅院勸進錢事 門徒中

五山 拾貫文

十刹 五貫文

諸山 参貫文

单寮 壹貫文

蒙堂 五百文

前資以下 百文

相国寺 五拾貫文

天龍寺 五拾貫文

(中略)

鹿苑院 廿貫文

本山クラス

塔頭クラス

崇寿院 (相国寺) 拾貫文

上生院 (南禅寺) 参貫文

大光明寺 (伏見) 参貫文

光勝院 (阿波国板東郡) 参貫文

大智院 (相国寺) 五貫文

鹿王院 (嵯峨) 五貫文

常徳院 (相国寺) 参貫文

勝定院 (相国寺) 参貫文

金剛院 (天龍寺) 壹貫文

(中略)

環中菴 (相国寺) 一貫文

清白寺 (甲斐国山梨郡) 一貫文

嘉祥院 参貫文

普濟寺 濃 一貫文

長禅寺 (甲斐国山梨郡) 一貫文

定恵寺 濃 一貫文

祥勝院 同 一貫文

勝善寺 (甲斐国山梨郡) 一貫文

護宝院 (嵯峨) 参貫文

流芳菴 (嵯峨) 貳貫文

亀溪菴 (嵯峨) 参貫文

吸江菴 (土佐国長岡郡) 貳貫文

明白菴 (嵯峨) 参貫文

会雲菴 (嵯峨) 一貫文

諸院クラス



濟北菴 (嵯峨)

貳貫文

広惠院 (相国寺)

参貫文

乾徳院 (相国寺)

参貫文

(後略)

《史料五》〔僧梵濟公用錢送状〕明王院文書

〔相国寺史〕一、四〇三頁

送進

乾徳院領福田庄公用錢事、

合拾捌貫文者、

右所送進之状如件、

応永廿年十二月六日

梵濟 (花押)

御奉行所

《史料三》〔足利義滿御判御教書〕普広院文書

〔相国寺史〕一、三五七頁

(端裏貼紙) 〔鹿苑院殿〕

(花押) (足利義滿)

相国寺乾徳院事、可為当寺諸塔頭之列之状如件、

応永十三年五月廿日

《史料六》〔普広院領不知行在所目錄〕普広院文書

普広院領内

当 御代 (足利義澄) 不知行在所之事、

一 遠江国河勾庄 (長下郡) (自明応六年丁巳歳 / 今川総州 (氏親) 押領、)

一 丹波国八木志万 (船井郡) (自明応七年戊午歳 / 細川 (政元) 殿被官一官式部少輔押領、)

一 播磨国菅生庄 (飾西郡) (自文龜三年癸亥歳 / 赤松 (義村) 殿被官堀藤次押領、)

一 六条東洞院屋地子 (近年 / 細川殿被官香西又六 (元長) 半濟押領、)

一 柳原当院 (普広院) 西門前屋地内 (近年太田押領 / 細川殿被官豊田出雲押領、)

右

永正三年二月 日

《史料四》〔足利義持御判御教書〕普広院文書

〔相国寺史〕一、四〇〇頁

(端裏貼紙) 〔勝定院殿〕

備後国福田庄地頭職・同領家方預所職・同国則光庄西方地頭職・丹波

国八木嶋地頭職・伯耆国所子保半分・楊梅烏丸南東頰地壹町除籬地・北

林屋敷等事、任当知行、乾徳院領掌不可有相違之状如件、

応永廿年七月四日

内大臣源朝臣 (花押)

表1 史料にみえる普広院領荘園

年	西暦	月	日	應永20	永享8	文安2	文安3	長祿4	寛正3	寛正3	文明元	文明5	文明12	文明12	(文明14)	延徳2	永正3	永正7	天文9	弘治2	
						1445	1446	1460	1462	1462	1469	1473	1480	1480	1482	1490	1506	1510	1540	1556	
		7	2			12	6	8	5	10	7	11	10	12	閏7	9	2	7	5	3	
		4	23			-	5	15	24	29	29	24	-	26	17	20	-	28	13	7	
荘園名	山城国楊梅烏丸南東類地(六角東洞院地)	○	○				○	○							○	○	△				
	山城国柳原普広院西門前屋地内																△	○			
	河内国山田庄									○											
	三河国東上郷						○	○			○		○			○					
	遠江国河匂(曲)庄										○		○			○	△				
	遠江国懸革(河)庄											○									
	丹波国八木嶋地頭職	○						○	○		○		○			○				△	
	伯耆国所子保半分	○	○					○	○							○					
	播磨国太田庄地頭職・領家預所職						○	○	○			○		○	△	/	/	/	/	/	/
	播磨国佐用庄広岡名						○	○	○			○		○	△	/	/	/	/	/	/
	播磨国菅生庄半濟分(太田・広岡の替地)															○	△				
	播磨国釜内跡内所々散在(太田・広岡の替地)															○					
	備前国香賀登庄3分の2							○	○	○	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
備後国則光庄西方地頭職	○	○					○	○							○						
備後国福田庄地頭職・領家方預所職	○	○					○	○							○						
出典		足利義持御判御教書	足利義教御判御教書			兵庫北関入船納帳	管領細川勝元下知状	足利義政御判御教書	蔭涼軒日録	蔭涼軒日録	普広院重書目録	足利義政御判御教書写	普広院重書目録	足利義政御判御教書	侍所所司代浦上則宗書状	普広院領当知行目録	普広院領不知行目録	室町幕府奉行人連署奉書	大館常興日記	三好長慶書下	
		普広院文書	普広院文書				普広院文書	普広院文書			岡谷惣介氏所蔵文書	今川家古文書写	慈照院文書	普広院文書	古文書集十九	岡谷惣介氏所蔵文書	普広院文書	普広院文書		岡谷惣介氏所蔵文書	

印…○ 安堵・当知行  
 △ 押領された領地・不知行  
 / 他人に宛がわれ普広院領ではなくなった領地

図1 普広院領荘園分布図

